

水稲早期栽培における開花及び登熟について

吉岡 寿満二*・和田 学*

YOSHIOKA, S. & WADA, M. On the Habits of Flowering and Ripening Process of Paddy Rice Plant in the Early Cultivation

1. 目的及び方法 水稲の早期栽培における開花習性、登熟経過を明かにするため1954年稲第1研究室で行った研究の概要を報告する。供試品種は巴まさり、農林17号、農林29号を用い、ビニール被覆の保温折衷苗代とし、坪当り3合、3月17日播種、4月29日に $\frac{1}{6}$ ガワログネルポットに1鉢3株を1本植とし、各品種25鉢を供試した。調査は主稈のみについて行い、開花調査は穂の模式図を作り毎日午後開花穎を記入し、登熟過程は開花3日後より2日毎に各品種2穂を採り1次枝梗の位置により上中下部に分け、1粒宛重量を測定した。

2. 結果及び考察

第1表 1穂内の開花日の分布

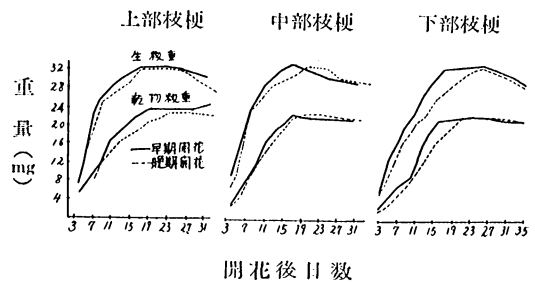
開花日	巴まさり	農林17号	農林29号
第1日	12.1%	12.2%	6.7%
2	25.5	26.0	24.1
3	22.1	26.7	25.5
4	27.6	20.9	25.4
5	11.8	10.2	13.6
6	1.0	3.2	4.4
7	—	0.9	0.4
計	100.0	100.0	100.0

(1) 開花について。1穂中の穎花の開花順序は各品種共に従来の標準栽培のそれと同様であった。1穂の開花所要日数は7日で標準栽培に比べて稍短い。

1穂内の開花日の分布は第1表のようで、4日目に1穂穎花数の80~90%が開花を終了する。

(2) 登熟経過について。開花後子房への同化養分の移行蓄積が略完了するまでに要する日数は15~20日で、標準栽培の35~40日に比べ著しく短かく、早生種ほど速かである。1穂内の上部、中部は下部より早く、また同一枝梗内でも開花の早い強性穎花は早い。以上のことより、登熟所要日数は開花後巴まさり23日、農林17号25日、農林29号27日位を要し、更に1穂の開花の中を加えると、1穂の全粒が登熟を完了するには、最初の穎花が開花後巴まさり28日、農林17号32日、農林29号33日を要することとなる。

第1図 主稈穂における1粒重の変化(農林17号)



*九州農業試験場